

平成 29 年度 岡山大学大学院法務研究科  
法学既修者入試 C 日程 試験問題

## 刑事法系（刑法、刑事訴訟法）

### 解答上の注意

1. 問題冊子は、表紙を含め 3 枚である。
2. 問題には、問題 1 と問題 2 がある。配点は、問題 1 が 60 点、問題 2 が 40 点である。
3. 表裏に解答欄がある解答用紙は、問題 1 用と問題 2 用の 2 枚が配布されている。各問題ごとに解答用紙 1 枚を使って解答すること。
4. 解答用紙の受験番号欄に受験番号を算用数字で記入し、また試験科目欄に「刑事法系」と記入すること。なお、整理番号等その他の記入欄には記入しないこと。
5. 試験終了後、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。
6. 解答の際は、黒又は青のボールペンを使用すること。
7. 試験終了後、解答用紙と貸与した六法を回収するので、指示があるまで席を立たないこと。
8. その他は、すべて監督者の指示に従うこと。

**【問題 1】**

以下の事例を読んで、X女の罪責を論じなさい。(解答の冒頭に「問題1」と記入すること。)

**【事 例】**

X女はある日の日中、実子であるY（2歳）を連れて流れが緩やかで浅い川の近くを散歩していたところ、Yが足を滑らせてその川の中に転落した。X女は、日頃からYを疎ましく思っており、この機会にYを死亡させようと考え、Yをそのまま放置した。その結果、Yは、徐々に流されていき間もなく水死した。

当時、周囲にはX女とY以外には人影はなく、また、その川は成人であれば水の中に入っても何ら危険がない状況でありX女はそのことを認識していた。さらに、X女が川の中に入ることも何ら危険はなかった。

なお、Yが川の中に転落したことについてX女には過失がなかった。

《問題1 以上》

《次頁に続く》

## 【問題 2】

次の事例を読み、後記設問に答えなさい。（解答は、【問題 1】を解答した用紙とは別の解答用紙に書き、冒頭に「問題 2」と記入すること。）

## 【事 例】

警察官 P は、警察署内で、V から「自分の携帯電話に心当たりのない携帯電話番号から電話がかかってきて、相手は『A』と名乗ってきた。その A からアダルトサイトの利用料として 10 万円の支払いを要求された。自分はアダルトサイトの利用は行っていないがどうしたらよいか。」との相談を受けていた。警察官 P は「A」を名乗る何者かによる V に対する架空請求の詐欺未遂事件であると判断し、V からさらに詳しい話を聴くこととした。すると、その相談の途中、V の携帯電話に上記の「A」が掛けてきた携帯電話番号から着信があった。V は、警察官 P にその旨を伝えると、P は V に対し「その電話に出てほしい。そして、あなたと A との会話を録音させてほしい。」旨頼んだ。これに対し、V は了承した。

V は、自己の携帯電話の通話が P にも聞こえるように設定した上、電話に出ると、相手は「A」を名乗る男であった。そして、その「A」と名乗る男は V に対し「10 万円の件だが、今日中に支払わないと裁判になる。」などと言い、30 秒ほどで電話を切った。警察官 P は、その会話を A の了承を得ることなく、かつ、何ら令状を得ることなく IC レコーダーを用いて録音した。

〔設 問〕 警察官 P が行った上記録音は適法か。

《問題 2 以上》

《刑事法系問題 以上》

【出題意図】

問題 1

本問は、不真正不作為犯の理解を問うものである。

問題 2

本問は、秘密録音の事案を通じ、強制処分と任意処分の区別の理解を問うものである。